会報
第80号
2022年3月

アルテピア

一般社団法人 北海道美術館協力会
札幌市中央区北3条西18丁目2－7 新田ビル2F　TEL・FAX 011－644－4025
https://www.artepia.or.jp

環境造形Q《北斗まんだら》

1986年　黒御影石、安山岩、赤エゾ松　8.0～10.0×36.0×36.0m（札幌芸術の森野外美術館）

鬱蒼と茂る針葉樹林の向こうに、明るく開かれた場がちらりと見える。昼間でもやや翳りのある木々の間を抜けて歩くこと数十歩、突如、林が途切れ空間が現れる。中央には北斗七星の形に点々と配された黒御影石。その表面を輝かせる光源を探して頭上を見上げると、抜けるような青空が木々の梢に縁どられ、目を奪われる。

作品の名は《北斗まんだら》。3名の彫刻家、山口牧生、増田正和、小林陸一郎によって結成されたアーティスト集団、環境造形Qによって、札幌芸術の森野外美術館のオープンに合わせて制作された。制作、という言葉に一抹の違和感を禁じ得ないのは、空間があまりに周囲の森と「自然に」調和しているからか。作家たちはまさに、作品が時を経て、自然と一体となることを目指したという。

開館から35年目を迎えた2021年、野外美術館の全作品の現況調査が行われた。オープン当時を知る方からは、とりわけ《北斗まんだら》は作家たちの希望通りのあり方になりつつあるとの言葉を頂戴する。とはいえこの環境も他の作品も、当然ながら変化の中にある。時の経過による変化を受け容れるところと、あらがうべきところ、その兼ね合いを課題としながら、美術館ではこれからの姿を模索している。

冬季休館中の札幌芸術の森野外美術館は、4月29日より開館予定。新鮮な春の空気の中で、折々に豊かな表情を見せる《北斗まんだら》と彫刻作品をご堪能ください。

山田のぞみ（札幌芸術の森美術館　学芸員）

ライデン国立古代博物館所蔵
古代エジプト展

EGYPT, LAND OF DISCOVERIES from The National Museum of Antiquities in Leiden,The Netherlands

2022年7月10日（日）～8月21日（日）

北海道立近代美術館

北海道立近代美術館　上席専門員　**地家光二**

左から「アメンヘテプのミイラ覆い」、「アメンヘテプの内棺」、「ホルの外棺」、「パネシィの外棺」、「ハイトエムハトの棺」

栄華、壮麗、永遠 ―― 古代王朝の神秘世界！

約3000年にわたる壮大な歴史と文化、そして30にものぼる王朝が刻んだ栄華――古代エジプト文明は、きらびやかで不思議で神秘的なイメージにも彩られて、世界中の多くの人々を魅了し続けています。北海道でもこれまでに幾度か古代エジプトの文物を紹介する展覧会が開かれ、それぞれに人気を集めました（当館では2001年の「エジプト文明展」が20万人を超える観覧者を迎えて歴代№2。記憶に残る方もいらっしゃるのではないでしょうか？）。

悠久のロマンをかきたてる古代エジプトの遺跡の発掘は今もなお続き、科学的な探究も進んでいます。独特の死生観、宗教観、美意識を伝える遺宝や出土品の数々――。古代王朝の魅力はまさに尽きることがありません。

「アメンヘテプ・フイの方形座像」石灰岩
B.C.1390-1353 年頃

「王の書記パウティのピラミディオン」石灰岩
B.C.1290-1279 年頃

「カルトナージュ製の襟飾り」カルトナージュ
B.C.304-30 年頃

世界屈指のコレクション、エジプト研究の最前線！

そして今回、最新の研究成果を踏まえて、さらに魅力を増した「古代エジプト展」が開催されます。オランダのライデン国立古代博物館が誇る世界有数のエジプト・コレクションから厳選した、人や動物のミイラを含む多彩な発掘品など約250点の展示。一昨年秋から日本の主要都市を巡回して話題を呼んでいる展覧会が、いよいよ札幌（日本最終会場）で開幕します。じつはこの展覧会、2年前の札幌での開催予定が、コロナ禍の影響で一度は中止のやむなきにいたりましたが、所蔵館や関係者の熱意と努力により再び開催が実現したものです。それだけに一層待ち望まれますね。

ライデン国立古代博物館は、1818年に設立された世界最古の国立博物館のひとつ。コレクションの質と量ばかりでなく、60年以上も続けるエジプトで

「パディコンスの『死者の書』」（部分）パピルス　B.C.1076-944 年頃

「パマアエフの碑」彩色された木
B.C.943-746 年頃

の発掘調査や、国際的な研究プロジェクトの中心的存在として、世界をリードする最先端の研究も進めています。その成果の一端が本展で明らかにされるのです。

4つの視点で解き明かす 古代エジプトの新たな魅力！

来世での永遠の生を願ったエジプトの人々は、墳墓や神殿に、豪華なミイラ棺、象形文字ヒエログリフによる碑や書（パピルス）、呪術的な装飾品や人形、神々の像などを捧げました。本展では、それらの埋葬品や出土品を〈探検〉〈発見〉〈解読〉〈スキャン〉の4つのキーワードで解き明かしつつ展示を構成し、古代エジプトの精神世界に迫ります。

それでは、各章ごとに展示の概要とみどころを紹介しましょう。

―第1章　エジプトを〝探検〟する―

18世紀末のナポレオンによるエジプト遠征以降、ヨーロッパでエジプトへの関心が急速に高まります。

「ツタンカーメン王の倚像」花崗閃緑岩
B.C.1330 年頃

初期のエジプト探検の発掘品や遺跡のスケッチ、現在も続く遺跡調査の出土品、関連映像を紹介します。ロゼッタ・ストーンのレプリカも展示。

―第2章　エジプトを〝発見〟する―

先王朝時代も含め10の時代に区分される3000年の文明の各時期の代表的な石碑や彫像、さらに1500柱以上の神々を信奉する多神教の世界を紹介。イシス、オシリスをはじめ様々な神像や動物神の造形がみものです。

右「タネトアメンのプタハ・ソカル・オシリス像」木
B.C.1076-944 年頃
左「イクニューモン」青銅　B.C.722-332 年頃

―第3章　エジプトを〝解読〟する―

古代エジプト人にとって、墓は「来世の家」。ミイラとともに、豪華な棺、『死者の書』、呪術的な宝飾品や護符、死者の身代わり人形「シャブティ」、日用品などがおさめられます。それらの副葬品を通じて、独特の死生観・宗教観を読み解きます。ミイラがどのように作られたのかにも迫ります。

「ウジャトの眼形護符」ファイアンス　年代不詳

―第4章　エジプトを〝スキャン〟する―

本展のために、人のミイラ3体と動物のミイラ1体を、原型を保ちつつCTスキャンで調査しました。その内部は？……。最新の科学技術が古代エジプト文明の新たな側面に迫ります。

スキャンイメージ

みどころ満載！圧巻の展示！

本展は各所にみどころ満載ですが、なかでも第3章のミイラ棺の展示方法は、これまでにはなかったユニークなもの。棺の本体と蓋とを立てた状態で十数点が一堂に立ち並ぶ展示は、まさに圧巻！といえるかもしれません。ぐるりと並んだ木棺、その華麗な装飾と向き合うとき、きっと古代エジプトの世界に魅入られることでしょう。

「ネスナクトの『死者の書』」パピルス　B.C.304-30 年頃

All images ©Rijksmuseum van Oudheden (Leiden, the Netherlands)

近代美術館

日本画家　羽生輝展
悠久の岬を望む
4月16日(土)～6月26日(日)

1941年、東京に生まれた羽生輝は、7歳の頃に移り住んだ北海道、釧路を拠点に制作活動を続けてきた日本画家です。

作品の主題は道東の浜辺に取材したものが多く、風雪厳しい北国の情景を板張りの番屋や生活の灯りとともに、鋭く重厚な筆致によって大画面へと描き出してきました。また近年は釧路湿原を主題とした連作を手がけ、雄大で穏やかな画風の新境地を拓いています。

本展では、半世紀以上にわたる画業の中より初期から近年までの代表作約60点を一堂に展覧し、あわせて少年期の作品、海外取材作品、紙本作品、新聞連載挿絵原画、関連資料等を紹介し、その画業を回顧します。

土地に生きることで実感とともに捉えられてきた、人と自然のかたち。浜辺から湿原へと視線を移しながら、遥かなる岬を50年以上に渡って描き出してきた、羽生輝の日本画世界をご覧ください。

羽生輝《海霧(07.オダイト)》
2007年、北海道立釧路芸術館蔵

mima三岸好太郎美術館

第2期所蔵品展
「100の素描」
4月23日(土)～7月3日(日)

「一タッチ一ハケにも心がなければ駄目です」。洋画家・三岸好太郎が妻の節子にあてた手紙文です。

三岸は油彩制作とは別に、上海の少女や道化、風景などをテーマに多くの素描作品をのこしました。

本展では、旅先でのスケッチ、人物デッサン、《道化》シリーズや《オーケストラ》の習作のほか、晩年の傑作、筆彩素描集『蝶と貝殻』に至るまでを一堂に紹介。三岸が描く線の魅力に迫ります。

三岸好太郎《姑娘》1926年
北海道立三岸好太郎美術館蔵

旭川美術館

美術館に行こう！
ディック・ブルーナに学ぶ
モダン・アートの楽しみ方
4月23日(土)～6月26日(日)

2年前、『うさこちゃんびじゅつかんへいく』という絵本のお話に沿って、旭川美術館の絵画、彫刻などを紹介する本展を本誌第76号で紹介しました。コロナ禍で、会期直前に中止になりましたが、この度開催が決まりました。

ミッフィーの生みの親であり、絵本作家、グラフィック・デザイナーとして知られるディック・ブルーナは若い頃にパリやロンドンでピカソやマティスといったモダン・アートに影響を受け、デザインの仕事も多く手がけています。

本展では、ブルーナが手がけたポスター、ペーパーバックなどを展示する他、ミッフィーをはじめとする絵本をどのように作ったのかを紹介します。美術館の作品とブルーナの魅力をどうぞお楽しみください。

© Mercis bv

函館美術館

奈良原一高
―王国 Domains
4月29日(金)～6月19日(日)

奈良原一高(1931～2020)は戦後の日本を代表する写真家の一人です。大学院在学中に開催した初の個展「人間の土地」(1956年)で、緻密な構図による独特の映像美をたたえた作品がリアリズム写真を主流とする当時の写真界で話題となり、一躍注目を集めました。

《王国》は二回目の個展(1958年)で発表された作品。北斗市のトラピスト修道院を取材した〈沈黙の園〉と、和歌山県の女子刑務所を題材にした〈壁の中〉との二部構成によるモノクロ写真です。外界と隔絶された空間に生きる人間存在を深く見つめたもので、静謐さのなかに孤独感や悲しみなどをにじませた陰影に富む表現が大きな反響を呼びました。

奈良原の写真家としての評価を確立した日本の写真史に残る名作をぜひご覧ください。

奈良原一高《王国》
1958年、北海道立函館美術館蔵
©NARAHARA IKKO ARCHIVES

帯広美術館

帯広美術館コレクション アートの中の風景

4月16日(土)～6月26日(日)

旅をすることが難しくなっている昨今。作品を見て、心の中で様々な場所を訪れてみませんか。これまでの旅行で、ふだんとは違う新鮮な眺めにワクワクしたこともあったのでは？当展覧会では、帯広美術館コレクションの中から、その楽しさを思い出させる作品を展示します。

19世紀後半から20世紀半ば頃までに制作された、鮮やかな色彩と明快な構図で観光地の魅力を伝えるポスター。画家たちが旅行し、あるいは居住して国内外の風景を描いた油彩画やスケッチ、版画、日本画。道東ゆかりの画家たちが写実的に、または抽象的に表現した豊かで厳しい北海道の自然。

見たこともない場所はもちろん、行ったことがあるところでも、アーティストたち独自の視点から風景を見ると、新たな発見があり、その場所の魅力が増すかもしれません。

作者不詳
《フランスへ行こう、コート・ダジュール》
1952年、北海道立帯広美術館蔵

釧路芸術館

日本の洋画130年 具象表現の栄光

4月23日(土)～6月19日(日)

笠間日動美術館50周年を記念して、同館コレクションから日本洋画の秀作38点を一堂に展覧します。初期洋画を牽引した高橋由一、外光派として活躍した黒田清輝と藤島武二、明治浪漫主義を象徴する青木繁、娘・麗子の肖像で名高い岸田劉生、大正の前衛・萬鉄五郎、日本的洋画を確立した梅原龍三郎と安井曽太郎、札幌出身の三岸好太郎や、現在も活躍中の奥谷博まで、明治から現代にいたる巨匠の作品をご覧いただく絶好の機会です。

また、日本の近代彫刻を代表する荻原守衛、舟越保武の彫刻2点もあわせてご紹介します。

釧路会場独自の企画として、笠間出身のイコン画家・山下りんの作品も特集展示。同館所蔵のイコン2点に加え、釧路ハリストス正教会ならびに上武佐ハリストス正教会（中標津）のイコン12点を紹介します。

高橋由一《鮭図》
1879～80年、
笠間日動美術館蔵

札幌芸術の森美術館

銀の匙 Silver Spoon展

7月16日(土)～9月11日(日)

北海道の大蝦夷農業高校（エゾノー）を舞台に、都会育ちの主人公・八軒勇吾の成長を描いた荒川弘作の漫画「銀の匙 Silver Spoon」。2011年に『週刊少年サンデー』（小学館）で連載を開始すると、2度のアニメ化や実写映画化などを経て大きな話題を呼びました。2019年に爽やかな余韻を残して完結した本作が連載開始から10周年を迎えることを記念し、約200点の直筆原稿やカラー原画、初公開の制作資料を紹介する本格的な原画展を開催します。

©荒川弘／小学館

本郷新記念札幌彫刻美術館

はじめてのほんごうしん

1月28日(金)～5月31日(火)

2020年、彫刻家・本郷新がこの世を去ってから40年が経ち、続いて2021年には、本郷の遺志を受け継いで活動を続けてきた当館が開館40周年を迎えました。これらを経た今、本郷の作品の現代的意義をあらためて考える場として、「はじめてのほんごうしん」展を開催します。時代を超えてなお色褪せない作品の魅力や、本郷が作品に託した願いを、現代の私たちはどのように次世代へ語り継いでいくべきなのでしょうか。

本展では、本郷新をはじめて知る人々に向けてその全貌を紹介するのみならず、最新の研究成果をふまえた作家像を示し、本郷の作品の普遍性と新たな価値を探ります。

本郷新《無辜の民・油田地帯I》1970年

MUSEUM CALENDAR
2022.4～2022.10

は特別展示室　は常設展示室
濃色はアートギャラリー北海道

美術館のおもな展覧会ご案内

	4	5	6	7	8	9	10
近代美術館	3/26(土)～4/3(日) 山口南艸の書とわか葉会門流展	4/22(金)～6/26(日) UHB北海道文化放送開局50周年・北海道新聞創刊80周年記念事業 ドレスデン国立古典絵画館所蔵 フェルメールと17世紀オランダ絵画展		7/10(日)～8/21(日) ライデン国立古代博物館所蔵 古代エジプト展		9/3(土)～10/30(日) 北海道新聞創刊80周年 聖徳太子1400年御遠忌記念 国宝・法隆寺展	
		4/16(土)～6/26(日) (1階・2階) 日本画家 羽生輝展　悠久の岬を望む (2階)　【この1点を見てほしい。】 吉川霊華〈太上老君〉1917年		7/10(日)～8/21(日) (1階) 時間をめぐって 新収蔵品展 (2階) 没後100年　中原悌二郎展		9/3(土)～11/7(月) (1階) 『北の美のこころ』を携えて (2階) 現代ガラスの美	
	TEL 011-644-6882　道近美　検索						
三岸好太郎美術館	12/17(金)～4/10(日) 三岸が愛した札幌	4/23(土)～7/3(日) 100の素描		7/16(土)～9/25(日) 1920's -1930's三岸好太郎が生きた時代 同時開催:アトリエへようこそ			
	TEL 011-644-8901　mima 三岸美術館　検索						
旭川美術館		4/23(土)～6/26(日) 美術館に行こう!―ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方		7/9(土)～9/4(日) 旭川の美術100年　第一部		9/17(土)～11/27(日) 世界が絶賛した浮世絵師北斎展 ―師とその弟子たち―	
		4/23(土)～6/26(日) 「木の造形」クロニクル		7/9(土)～9/4(日) 旭川の美術100年　第二部		9/17(土)～11/27(日) こころ育む学び舎 ―北海道教育大学旭川校―	
	TEL 0166-25-2577　旭川美術館　検索						
函館美術館		4/29(金)～6/19(日) 奈良原一高 ―王国 Domains	6/30(木)～7/6(水) 第63回 北海道書道展 函館展	7/16(土)～9/25(日) 笠間日動美術館コレクション 魅惑の西洋近代絵画 モネ、ルノワールからピカソ、マティスまで		アートギャラリー北海道 10/8(土)～12/4(日) 詩文書の魅力 金子鷗亭と中野北溟	
		4/29(金)～9/25(日)　岩船修三　アイヌ・ユーカラの世界				10/8(土)～12/4(日) 江戸の役者絵	
		4/29(金)～9/25(日)　散らし書きの美				10/8(土)～12/4(日) 東洋工芸コレクション 鷗亭のまなざし	
	TEL 0138-56-6311　函館美術館　検索						
帯広美術館		4/16(土)～6/26(日) 帯広美術館コレクション アートの中の風景		7/9(土)～9/4(日) 竹久夢二　小林かいち グラフィック黎明期の抒情(リリスム)と詩情(ポエジー)			
		4/16(土)～6/26(日) 版画　1970年代		7/9(土)～9/4(日) 新収蔵品展 荒井善則作品と荒井コレクション			
	TEL 0155-22-6963　帯広美術館　検索						
釧路芸術館		4/23(土)～6/19(日) 日本の洋画130年		7/9(土)～9/4(日) ヨーロッパ版画の花束 同時開催:いきものの王国　岩合徳光・動物記		9/17(土)～11/23(水・祝) 厚岸・国泰寺の200年	
		4/23(土)～6/19(日) 新収蔵展示 木島誠悟の絵本原画・毛綱毅曠の設計図					
	TEL 0154-23-2381　釧路芸術館　検索						
札幌芸術の森美術館		4/19(火)～6/28(火) PIXARのひみつ展		7/16(土)～9/11(日) 銀の匙Silver Spoon展		9/23(金・祝)～10/10(月・祝) 北海道の建築2022	
	TEL 011-591-0090　芸術の森美術館　検索						
札幌本郷新記念彫刻美術館	本館　1/28(金)～5/31(火) はじめてのほんごうしん			本館　6/11(土)～8/31(水) 生誕100年　藤川叢三展		本館　9/10(土)～12/11(日) 建築家・上遠野徹と本郷新の宮の森のアトリエ	
	記念館　～5/31(火)　100の石膏像			記念館　6/11(土)～2023/4/16(日)　コレクション企画展			
	TEL 011-642-5709　本郷新彫刻美術館　検索						

○**開館時間**　9：30 ～ 17：00　(入館は 16：30 まで)
※芸術の森 9：45 ～ 17：00（6 月から 8 月は 17：30 まで）　※札幌彫刻美術館 10：00 ～ 17：00　(入館は 16：30 まで)
○**休 館 日**　●毎週月曜日(月曜日が祝日又は振替休日のときは開館、翌火曜日休館)　●年末年始(12/29 ～ 1/3)　●展示替え期間(展覧会と展覧会の間)
※芸術の森 5 月～10 月無休（展示替期間は休館）
※施設により臨時休館、臨時開館の場合もありますので、各施設のホームページでご確認いただくか施設にご確認願います。

※会員証の利用について　貸館の観覧は会員証が利用できない場合がありますので、ご了承願います。
※[アートギャラリー北海道] は、道内の美術館がネットワークでつながり、双方向でアートを紹介・発信することにより、北海道全体がアートの舞台となることを目指す取組みです。

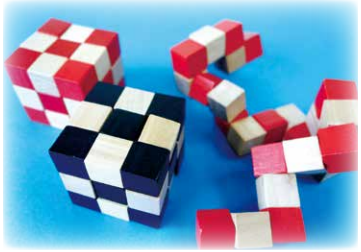
近美 Museum Shop

硝子工房GLOW
兜飾り（4色）19,000円

エコバッグ
フリーダ・カーロ／
モンドリアン／
ゴッホ 各1,540円

硝子工房GLOW
鯉のぼり 18,000円

スネークキューブ
各色770円



四つの風　砂澤ビッキの創作世界
（北海道新聞社）
3,080円

砂澤ビッキ　音威子府の風
ポストカードセット（甲斐敬章写真集）
1,100円

寅段（とらだん）ゴールド
FLATS 4D ART PUZZLE
1,430円

ご入会ありがとうございました　新会員紹介　2021年4月～2022年2月・敬称略

＊個人会員

4月

札幌市　本城清晴
〃　伊藤由美子
〃　平井江
〃　丸山智恵美
〃　成田直彦
〃　青山和正
〃　山田純
〃　牧内なお子
〃　鈴木勝美
〃　一色良晃
江別市　三浦忠善
北広島市　小田山ゆき
西宮市　竹山政美

5月

札幌市　竹田実香
江別市　伊藤文明
旭川市　岡田和久

6月

札幌市　安木尚博
〃　安達知華

7月

札幌市　遠藤眞智子
〃　谷本亜希子
〃　加藤昌子
〃　萩中留美子
〃　鈴木淑子
〃　齋藤康幸
室蘭市　高田真之助

8月

札幌市　丸山栄子
〃　渡辺一俊
〃　小竹葉月
〃　古堂佳孝
〃　柏原純子
旭川市　小野寺淳子

9月

札幌市　寺島輪音
〃　中町智子
〃　松本学己
〃　梅田容子

10月

札幌市　圓山吉子
〃　前野陽子
〃　早川尚
〃　渋谷智佳子
北広島市　髙畠由香

11月

札幌市　戸井健太郎
〃　中村美樹子
〃　髙橋綾子
札幌市　橋本庸介
〃　戸井さやか

12月

札幌市　伊達拓子
〃　小林恭江

1月

札幌市　坪内邦子
旭川市　松田緑

2月

札幌市　大場早苗
〃　船木弘子
〃　大西希
〃　北島めぐみ
岩見沢市　西川喜久世

美術講座プレミアムを終えて

新型コロナ緊急事態宣言が延長され、開催が危ぶまれた美術講座プレミアムでしたが、マスク着用や講堂内の換気など、可能な限りの感染防止対策を講じて開催となりました。

5月から開催予定だった美術講座が中止になり、当講座を心待ちにしていた方も多かったようです。

5回の講座は、いずれも講師の方々の豊富な資料を基にした貴重なお話を伺うことができました。43名の受講者の皆さんからは、「充実した講座だった」「大変興味深い内容だった」などの感想や評価をいただき、無事終えることができました。

令和4年度は、美術講座・美術講座プレミアムともに予定通り開催できることを願っています。

「美術への誘い」を開催

アルテピア特別活動部で定期的に実施している「美術への誘い」が中央図書館三階の講堂で感染対策に留意して行われました。

冬晴れの午後、会場には33名の参加者が集いました。今回は「歌川広重」「印象派の画家たち」「一度は見たい世界の名画」がテーマで、担当の方々は名画の数々をスクリーンに大きく映し出し、ポインターで見どころを示したり、さらに画面を拡大して説明を加えたりと工夫をこらして話をしました。

参加者の皆さんは絵にまつわるエピソードや作品の生まれた背景などを興味深く聞いていました。

アルテピア ニュース

MUSEUM SHOP & CAFE きねずみ

三岸好太郎美術館の一角に「カフェきねずみ」があります。「美術を鑑賞したあとにここで一息ついてほしい。地域の方が気軽に立ち寄り、この空間を楽しんでもらえたら…。この場所で人と人との交流が生まれることも願っています」と、オーナーの森さんはやさしい口調で話していました。

コーヒーやドリンクのほかに三岸好太郎にまつわるグッズも販売しています。三岸ゆかりの東京ロワールのブランデーケーキは、北海道では「きねずみ」だけで購入できます。三岸好太郎の妻節子の作品が包装紙に使われています。ぜひ一度足をお運びください。

第95回記念　2022第13回 道展 U21

2022年2月4~6日
於:市民ギャラリー

平成20年度からはじまった15歳から21歳までの公募展「道展 U21」、13回目を迎えた今年度の(一社)北海道美術館協力会賞は北海道教育大学岩見沢校の太子和奏さんが受賞されました。

受賞作品「2021年12月31日」は、大胆な画面構成の中、新聞紙面への精緻な描き込みもあり、強い印象を放つ作品です。

《2021年12月31日》太子和奏

編集だより

■「桜、咲く！」、どこかで聞いたことのあるこのフレーズ！雪の多かった今冬は受験生でなくとも待ち遠しい一言です。お手もとにこの「アルテピア 80 号」がとどく頃、明るい陽射しの下で桜の花芽は開花の時をじっと待っているかもしれません。

■今年度、道立の各美術館は海外からの大型展示や可愛いあのキャラクターのご紹介など楽しい企画が満載です。誌面のミュージアムカレンダーをご参照のうえ、アートな春をお楽しみいただけたら幸いです。

(M)